

平成27年度富山県地域包括ケアシステム推進会議

日 時 平成27年6月19日(金)

13:30～14:30

場 所 高志会館 嘉月の間

○開会

○挨拶（富山県地域包括ケアシステム推進会議会長 富山県知事 石井隆一）

○議事

1 地域包括ケアシステム構築に向けた今年度の県の取組みについて

事務局より資料1、資料2に基づき説明

2 地域包括ケアシステム構築に向けた構成団体での取組み状況等及び意見交換

（石井会長）

構成団体の取組み状況について、ご報告をお願いしたいと思います。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、推進会議のメンバーの方々は、いろんな取組みをされていらっしゃるかと思いますが、今日は代表ということで、県老人クラブ連合会の島田委員、県生活協同組合連合会の清水委員、北陸銀行の深井部長さんから、それぞれご報告をお願いしたいと思います。

まず、島田委員、よろしく申し上げます。

（島田委員）

先ほどは、地域包括ケアシステムの構築に向けた盛り沢山の計画を聞かせていただき、ありがとうございました。みんな安心できて、また、元気が出るんじゃないかという思いであります。

高齢者が安心して暮らせる高齢化社会にあって、在宅介護を進める意味においては、地域包括ケアシステムの推進は大変重要とっております。主体はあくまでも市町村であります。県老人クラブ連合会といたしましても、各市町村の老人クラブの会長さんと地域の健康づくりリーダー養成研修会などを通じて、認識を深めているところであります。それぞれの市町村にもいろんな考えがあると思いますが、我々老人クラブ会員によるこれまでの取組みとしては、見守り活動や介護予防などがあり、これからの取組みとしては生活支援活動の推進などが挙げられます。この場合、全国老人クラブ連合会の保険制度の活用が必要かと思っております。老人クラブは、健康・友愛・奉仕の三大運動を進める法に定められた団体であります。我々はこの三大運動を基にして、日本一の健康長寿県を目指しております。

先ほど、知事さんもおっしゃいましたが、あと10年経ちますと団塊の世代が75才になり、65才以上の高齢者が約3700万人になると言われています。そうすると、老人に多い認知症の方が大体700万人になると推定されております。高齢者の5人に1人が認知症となるわけで、日本の社会保障費はどうなるのでしょうか。全国老人クラブ連合会でも大変心配し

ており、その対策として、全国で100万人、富山県で3万人の会員増強を図り、寝たきりや閉じこもりを防ぎ、認知症患者の抑制等に努めることにしております。ちなみに、富山県の老人クラブ会員数は現在約17万人であります。

全国老人クラブ連合会では、老人クラブ活動そのものが介護予防であるという認識があります。富山県の老人クラブといたしましては、県、市町村、各界・各層のご支援、ご理解を賜りながら、とにかく88才の米寿まで何とか頑張ろうという固い決意を持って、老人クラブ活動を進めております。そして88才になったら、せっかく人生の8合目まで来たんだから、100才の大台を目指そうという気分になってくるんです。家族にも、人様にも、世間にも迷惑をかけずに、ピンピンコロリで往くことが、我々人生最後の社会貢献でなかろうかという思いで頑張っております。今後とも皆様どうかよろしくご指導のほどお願いいたします。以上であります。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

次は県生協連合会の清水委員、お願いします。

(清水委員)

県生協連合会の清水です。昨年度の取組みと今年度計画について、ご報告させていただきます。貴重な時間をいただきましてありがとうございます。それでは、よろしく願います。

まず最初に、生協として大切にしている考え方をご紹介します。1つ目は、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくりに参画する。2つ目は、1人暮らしの高齢の方を1人ぼっちとならないように支える体制づくりに協力する。3つ目は、県、市町村、住民団体、各種団体等との協力を進める。以上、3つの視点で取組みを行っています。

それでは、4点を中心に具体的な取組みを報告させていただきます。具体的な取組みにつきましては、資料3-2に実施事項や概数を記載していますので、ご覧ください。

最初の報告については、昨年度実施した市町村訪問についてです。本年4月の介護保険制度改定に向けて、昨年7月ぐらいから準備をして、10月に県内の6市を訪問して準備状況をお伺いするとともに、生協の介護や福祉助け合い活動に関わる取組みを情報提供させていただきました。目的としては、特に地域支援事業に関わる分野について、生協として市町村と協力して何ができるか検討するための意見交換をさせていただくこと、さらに、現在利用されている方々のサービスレベルが低下しないよう市町村に生協の要望をお伝えすることでした。

訪問後の感想としましては、各市町村との意見交換が今後とも継続して必要であり、深めていくことが大切であるということです。市町村広報活動については、今年度も継続して実施させていただきたいと考えていますので、市町村の方でもよろしくご協力をお願いしたいと思います。

2点目は、市町村との高齢者見守り協定の締結についてです。昨年から順次、県内の市

町村と生協で高齢者見守り活動に関する協定を締結しており、生協職員が宅配時に異変等に気付けば、迅速・的確な対処ができるような仕組みを整備しました。現在、県内6市町と協定を締結しています。県生協とCO・OPとやまの2つの生協の県内世帯構成比率は32%となっており、約3軒に1軒の割合で食品や日用品等を毎週ご自宅にお届けしています。その中で、宅配担当者の研修を継続して実施しながら、高齢者見守り協定を締結させていただきました。現在協定を締結していない市町村に関しても、今後相談させていただきながら、順次取組みを進めていきたいと考えています。

また近年、高齢者を狙った特殊詐欺被害が県内で多発しており、昨年、富山県消費者団体連絡会と協力して、県の多様な主体による消費者問題対応推進事業を活用して、宅配担当者を中心に研修会等を開催しました。協定を締結した市町村との今後の協力課題と考えている次第です。

3点目は、自分たちのレベルアップを図るための学習会、研修会等の開催についてです。講師を招いて、役職員、組合員、県民を対象にした学習会、研修会、認知症サポーター養成講座等を継続して開催しているところであります。

また、ちょっと変わったところでは、訪問介護事業や組合員によるボランティア活動における生活支援事業の中での調理技術の向上を目的に、昨年11月、2回目の介護職員調理グランプリ富山大会というのを開催しました。そこで発表されたメニューを基に料理レシピ集を作成して、訪問時に活用できるようにしたところであります。

4点目は、組合員による助け合い活動の拡大・充実についてです。これは、あくまでもボランティアを基本に進めています。生協は、組合員により成り立つ県民の自主的組織ですが、ボランティア活動として、組合員さん同士の自主的な暮らしの助け合い活動が活発に行われており、また、高齢の方や障害をお持ちの方に対する様々な独自の生活支援を実施しています。近年、地域包括支援センターなどから、こういうサービス、こういう応援をしてもらえないかという相談が入るのが普通になってきていまして、そういう所とも協力しながら進めていきたいと思っています。

今年度は、資料3-2に報告させていただきました各事項について、着実に前進させていきたいと思っています。

最後になりますけども、先ほどお話しがあった資料2-1の共同宣言について、生協として支持しながら役職員や組合員、県民等に広く周知するよう努めたいと思います。

また、宣言の内容を深めるよう、普段の事業や組合員さんの助け合い活動の中で学習し、可能なことから積極的に取組みをしていきたいと考えています。

以上で報告を終わりますが、詳細については資料3-2をお読みいただければと思います。どうもありがとうございました。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

それでは北陸銀行さんお願いします。

(庵委員 代理：深井)

北陸銀行法人・公共営業部の深井と申します。発表させていただきます。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、本質的な取り組みではないかもしれませんが、私どもでは、側面的なお手伝いを続けることによって貢献していきたいと考えております。

まず始めに、私どもはお店からお客様の所へ訪問しており、その地域のことを一番よくわかっているわけですが、その外交員によって、家のみならずその近所を含めて異変がないか、もしあれば、お客様に声を掛けることによって、健康にしていられるかどうかを常に確認するように心がけております。

2番目といたしましては、窓口での声掛けやチラシ配布等によって、特殊詐欺の防止に取り組んでおります。最近、よくマスコミで取り上げられておりますが、手口が巧妙化しております。銀行の窓口にお見えになった時には、銀行員のほうはかなり訓練されていますので、警察等と連携いたしまして、大体は防げるんですけども、最近は店舗外のATMでありますとか、その他の場所で、例えば現金でゆうパックでお金を送ってしまうとか、いろんな手口が行われておりますが、いろんな情報をお伝えして、未然に防止していきたいと思っております。

今年の4月より、70才以上で200万円以上の現金のお支払いをご指定された方々には、いろいろ注意深くヒアリングいたしまして、極力、振込の利用をお願いしています。振込といっても、振込先がおかしければもちろんお止めするわけですが、どうしても現金でお持ちいただきたいというお客様に対しては、保証小切手を発行するようにしております。この4月だけで、振込に切り替えていただいた先が80件、保証小切手に切り替えていただいた先が50件等ございまして、かなり浸透しております。それでもやはり新聞に出ておりますように事故が防げない状況になってはいますが、引き続き注意深く対応をしていきたいと思っております。

3番目ですが、認知症サポーター養成等による高齢者にやさしい店舗づくりに取り組んでおります。見守りネットワークとして各行政機関と協定を結びまして、現在、富山県内の支店24店舗に251名の認知症サポーターが配置されております。

現場におりまして、私も経験がありますが、3時間際に店頭に見慣れない方が来て、お話しを聞いていると、「通帳とハンコがなくなった」ということで喪失届を出していただく。次の日、また同じ時間帯に来られて、「嫁が私の通帳とハンコを持っていった」と。そんなことはないでしょうと申し上げるのですが、聞いてもらえず、さらに喪失届を出される。その次の日もまたお見えになって、「嫁が通帳とハンコを持っていった」ということが繰り返されたこともありました。その時はお嫁さんが来られるまで、私どもの店舗の中で休んでいただきましたが、こういったときでも、驚かさないように優しく対応していきたいと考えております。

また、高齢者の作品を展示するロビー展等を開催しておりまして、高齢者の方々の生きがいづくりに取り組んでまいりたいと考えております。さらに従業者の健康づくりだとか、ワークライフバランス、ボランティア活動の参加等を推進して、地域への貢献を進めていきたいと思っております。

今まさに地方創生ということで、改めまして、地域の経済力を高めるほかに、地域の人

口減少を食い止めるということにも取り組んでいるわけですが、都会の方からU、Iターンで若い方が戻ってくる、あるいは地元から若い方が出ていっても、また帰ってこられるような環境づくりを県のほうとも連携し、高齢化社会を支える、若い人たちの流出を食い止める、また増やす方向で活動に取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

(石井会長)

はい、ありがとうございました。

老人クラブ連合会の島田委員、県生協連合会の清水委員、北陸銀行の深井部長、それぞれご熱心な取組みを発表していただき、ありがとうございました。

それでは、意見交換に移りたいと思います。ただいまご紹介いただいた取組みへのご質問ですとか、皆様方の団体での取組み、また先ほど県としての地域包括ケアシステムの取組み方針をご説明しましたけれども、こうしたことについて、何かございましたらご発言をお願いしたいと思います。

まず、高橋委員さん、何かございましたらお願いします。

(高橋委員)

レポートありがとうございました。それぞれとてもいい取組みをされているかと思いますが、これからいろんなセクターをクロスして仕事をする、まさに北陸銀行さんのお話しで言えば、いわゆる特殊詐欺の防止というのは銀行だけではだめで、認知症サポーターとしての仕事とか、ネットワークなんか張り巡らされて仕事になると、そういうことかと思えます。

それで、県民に地域包括ケアシステムの啓発活動をされるということを伺いまして、富山発のオリジナルというか、独創的な試みがいくつくらいあるかなど、思い出してみました。

最近、ナイチンゲール記章を受賞された惣万さんの所で、まさに富山発のオリジナリティ、僕はひそかに富山の置き薬と並ぶ、2大発明ではないかとすら思っているのですが、今までは全部細切れにして対応する仕組みを共生型の仕組みにしたというのは大変なイノベーションで、ケアの世界でこれから使わなければいけないと、そう思いました。

それから、南砺市は、日本で初めて地域包括医療・ケア局という部署を作りました。南砺市の試みというのは知る人ぞ知るで、富山の方々にぜひ協力していただきたいなど。

それから先ほどの南砺市発であります、富山大学の山城先生が取り組んでいる地域医療再生マイスターの養成は、なかなか大変面白くて非常に重要です。これからの地域包括ケアというのは、プロが根本から作らなくてはいけないんですね。地域の人たちとプロの人たちが有機的につながるため、その結節点になるような力のある市民を育てる、これも富山発の大変重要な試みだと思っております。

それから、ものがたり診療所の佐藤先生もまた全国的に知る人ぞ知る方で、医療のあり方、在宅医療のあり方。

それからもう少し遡りますと、いつも富山に来ると思い出すのは、旧宇奈月町のおら

はうす宇奈月であります。全国で初めて全室個室の特別養護老人ホームを作ったんです。富山は大変施設が多い所で、そのことをもって増田レポートで推奨地域に2か所入ったと先ほどお話があった。あれに惑わされないでいただきたいんです。本当にそうか、これから施設というものは地域の人たちを支える拠点になりますので、あり方がガラッと変わります。そういうことを含めて、おらはうす宇奈月の試みは、もう1度再評価していただきたいなど。

もちろん、富山のコンパクトシティというのも、まさに地方創生と深く関わりますが、これは北陸銀行さんも相当興味がおありで研究中だと認識しておりますが、ぜひ上からの議論には、だまされないでいただきたい。要するに、内発的に富山型のモデルを発信すると。国がああいうことを出したからやるのではなくて、魅力のある富山市、富山県、それぞれの町をどう作るかという視点で、必要な投資をどうしたらいいかという、そういう形で組み立てを、思考の様式を。国がこうしているから、これが推奨だからというのではないやり方で。

地域包括ケアシステム、これは先ほど老人クラブの話もございましたが、何が何でも介護予防なんです。私たちのいくつかの都市のデータを見ておきますと、若い時から介護予防をやりますと、75から80歳の要介護認定率が明らかに下がる。15から20ポイントぐらい低い。

それから認知症は、先ほど5人に1人が認知症の時代という話もございました。これは何となく、有吉佐和子さんの恍惚の人の認知症を思い出して大変だという。そうではなくてMCIという、限界のボーダーラインの人たちが増える。そのためには何が必要かという、人とのつながり、地域とのつながり、そういうものが重要だということ、これも認知症の最先端の研究で分かり始めております。適切な形で医療を、最期、精神病院ではなくて、適切な形でネットワーク、診療体制を構築しますと、非常に穏やかに地域の中で溶け込んで生活ができる。そして施設や病院ではなくて、地域で生活を続ける。これが地域包括ケアのポイントでございまして、ひ孫さんの顔を見て生活をする、それは自分のひ孫である必要はなくて、地域の中で一緒に生活できる。これが惣万さんの仕事の大きな意味なんです、地域ぐるみで世代間で生活をする富山式地域包括ケアというのでしょうか、そういうものをぜひクリエイティブに作って発信をしていただきたいというふうに思います。もともと富山は、住みやすい県ナンバーワンと聞いておりますので、ぜひこれからもキープして、さらに地域包括ケアで地域を発展させていただきたいなというふうに思います。以上でございます。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでございましょうか。富山大学の鈴木委員さん、いかがでしょうか。

(鈴木委員)

鈴木でございます。

富山大学の方では、こういったものを扱っているのは地域連携推進機構といいまして、

私が機構長をしておりますけれども、生涯学習、地域づくり・文化支援、地域医療・保健支援という部門があるんですね。この3つの部門は、今話題になっていること全てに関わっていることでありまして、なんとかうまく活かして、地域に貢献したいなというふうに思っております。

特に、地域包括ケアということになりますと、地域健康事業、高齢社会生きがい支援、それから地域メンタルヘルス対策支援、そういうようなことでやってきておりますが、今年からは、医療のことがこれまで足りなかったものですから、地域医療に関する活動を本格的にいたしたいというふうに思っています。

それから先日、知事と学長のトップ会談がございましたけれども、地方創生に向けて、若者が地元に着定するための活動もしております。もちろん、先ほどいろんな意見があったように、若者がいる町が増えている、そういったことがやはり大切になると思いますので、それも含めて、地域に根差す大学としてやっていこうというふうに考えております。特に今年はそのような元年と思っておりますので、益々皆さんの意見を聞きながら活動していきたいと思っておりますので、いろんな意見を寄せていただきたいと思いますと思っております。以上でございます。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

岩城委員さん、どうですか。

(岩城委員)

先ほど、3つの構成団体の取組みを聞かせていただきましたが、県社協としてもぜひ協力していきたいと思っております。

県社協といたしましては、地域包括ケアシステムの構築に向けて、住民参加の下で地域に密着した効果的な活動が展開できるよう、ぜひ考えていきたいと思っております。

具体的には、市町村社協などの関係者による地域包括ケア推進会議というものを随時開きまして、地域社会を支える人づくり、あるいは体制づくりというものを協議していきたいと思っております。

今年度の取組みといたしましては、介護を支える人材の確保、それから生活支援サービスの確保、あるいは生きがいづくりというものを主にやっていこうかと思っております。

それから、県民運動、いわゆる啓発に関しましては、県下全域に渡っていろいろと行う必要があるかと思っておりますので、これも県社協としましては、市町村社協に呼びかけ、働きかけをしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

馬瀬委員さん、どうですか。

(馬瀬委員)

私ども富山県医師会は、先ほどご案内がありましたように、本年4月から富山県在宅医療支援センターを設置いたしましたして、今、活動に入っております。

この目的は、富山県下における在宅医療の資源をまずしっかり把握すること、在宅医療に関わる医師、看護師、それから地域のいろんな職種の方々の活動状況をまず把握して、その地域に合った支援を展開したいと考えております。

また、在宅医療に関わる医師の数は、地域によってはしっかり揃っている所もあるんですが、まだまだ足りない状況が。特に郡部の方は、早くからそういう問題意識がございまして対応がかなり進んでいるのですが、むしろ富山市ですとか、高岡市ですとか、比較的医療資源があるにもかかわらず、在宅医療に対する連携がうまくいっていないというような報告を受けておりますので、こういった所もしっかり支援してまいりたいと。

今日のいろんな皆さんの取組みを聞いて、ちょっと安心したというか、東京都なんかは、将来は地方に老人を押し出して、地方で見させようなんていう話が出ておりましたが、とんでもない話で、生まれ育った所で生活しているから楽しいので、幸せなので、年を取ったらその地域から他へ放り出して面倒を見ろというようなものの考え方というのは、どうかしているんじゃないかなと私は思います。富山で育った人は富山で、その地域でしっかり、皆がスクラムを組んで守っていけるようにするべきだと。

医療側は、その医療的ケア、それから介護ケアの部分でしっかりサポートできる体制を作っていかなければならないと思っております。皆様方の取組み状況を聞いて、我々もちょっと安心をさせていただきました。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

商店街振興組合連合会の武内委員さん、事業者の立場で何かございせんか。

(武内委員)

私たちは、生活支援サービスという部分で、いわゆる買い物弱者の方々にもいろいろ便宜を図ろうという取組みを各地でやっております。

例えば、ある程度の日用品等を車に載せて高齢者の施設に出向き、そこで販売するとか、それから商店街のほうへ出てきていただいて、買い物をされたものを宅配するというようなことに、地道ではございますけども、取り組んでおります。

また、街中に出てきていただいて、いわゆる高齢者のたまり場と言うとおかしいですけど、そういう施設も、商店街の中に何ヶ所か作っているところです。

そこで、いろいろ元気が出るということが、いろいろな人と話をすることが非常に大事じゃないかなと思っておりますので、そういうところを少しずつ充実していけたらいいなというふうに思っております。以上です。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

民生委員児童委員協議会の高山副会長さん、いかがでしょうか。

(得能委員 代理：高山)

民生委員・児童委員としても、老人クラブ連合会の島田会長さんが言われましたように、いつも友愛訪問というのを基本にして、地域の見守りをやっております。

これからは、やはり長期的に地域包括ケアとしての地域の見守りなど、いろんな取組みを協力しながらやっていけたらいいんじゃないかなと考えております。

それぞれ元気で、いろいろな方たちと仲良く、いろいろなものを作り上げていく中で、子育て、地域育てができれば、もっともっと住みやすくなるのではないかなと思っております。

民生委員としたら立場は本当に複雑です。赤ちゃんからお年寄りまでなので、どこでどう切ろうかと、いつも心を痛めておりますが、切る場所がございません。ずっと継続して見守りを続け、地域の中で少しでもお役に立てるように、みんなで取り組んでおりますし、今年は秋に全国大会を控えております。民生委員・児童委員は富山の良いところを発信したいと思っております。また皆さん、どうぞご協力をよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

介護支援専門員協会の高原委員さん、どうですか。

(高原委員)

今ほどいろんな活躍、活動等をお聞きして、いろいろいいことをやっていらっしゃるなというのが、心にあります。

せっかくいろんな団体がやっていらっしゃること、結構知ってるようで知らないところがあると思いますので、それぞれの市町村のほうもあるんでしょうけども、こんなことをやっているとか、もっと情報共有ができるというか、活用ができるようになっていけばいいのかなというような気がします。

私どもケアマネージャーは、地域包括支援センターなどいろんな所に配属されていて、専門分野のことは良くわかっているんですが、地域の皆さんの活動に関してはまだまだ知らないことが多々ありますので、そういうものをもっとわかりやすくしていければと思います。以上です。

(石井会長)

ありがとうございます。

まだ、若干時間ございますが。はい、どうぞ横川委員さん。

(横川委員)

おそらく、今日お見えになっている各団体の皆さん方は、それぞれの立場で一生懸命

自分の分野をこなして、富山県として非常にいい方向にいくんじゃないかならうかと思っております。

先ほど、富山県のほうからご説明ありました県民フォーラムの開催なんですが、12月に1回というふうに聞いております。しかし、呉東・呉西という県民性の違いを様々に感じておりますので、できれば、もう1回増やしていただけたらありがたいのかなど。予算の関係や内容等いろいろご配慮いただかなければならないという大変な問題点があるかと思いますが、富山市だけではなくて、私どもが足を運びやすい所でもう1回開催していただけたらありがたい、そういうふうに思っております。すみません。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

他に何かございませんでしょうか。岩田委員さんどうですか。

(岩田委員)

今、いろんな方の活動を聞きましたが、何かちょっとバラバラに、お互いに良いことはやっているけれど、もっと連携しないとだめなのではないかなということを感じています。ぜひそれぞれの市町村で何かまとめて、市町村が音頭を取って、こういうのはもっとこういうふうに、こういうような形でというふうにして、連携することが大事なのではないかなと感じております。その上でまた県が指導するとか、そういうふうに持っていけたらいいのではないかなと思います。

それと、まだまだ県民1人1人の自覚が足りないというのが地域包括にはあるという感じがしますので、やはり、もっともっと平生の行いを知らせることが大事だと思います。

先ほど、国の地方創生のお話しも出ましたけれど、私も生まれ育った地域で、最期まで看取るという考えで、そのための地域包括であって、どうして都会のほうから一斉に富山に、地方のほうに高齢者を移動させるのか。そういうことを発想されるのがおかしいのではないかと思います。それはまた国のほうでお考えかもしれませんが、それを受ける側もよく考えてやっていただきたいなど。地元でもなかなか思うように介護されない人たちもたくさんいますので、そこらへんもちょっと考えていただいて、検討していただければと思います。

(石井会長)

はい、ありがとうございます。

皆さんから意見が出ていましたが、せっかく各団体がいろいろ有益なことをやっておられますので、さっそく県としても各団体に照会をしまして、とりまとめて県のホームページに掲載したいと思っておりますし、岩田委員さんがおっしゃったように、市町村単位でもそれぞれまとめていただく必要がありますから、全県的な取組み、各市町村における取組み、少し整理して多くの皆さんに情報共有をしてもらおう。また、その中からこれまで以上いろいろなコラボレートができて、より充実した運動になるんじゃないかというふうに思いま

す。

また、フォーラムを富山市だけでなくという点については、この次はぜひ呉西の方でもやるということを含めて検討いたしたいと思います。県政いろいろ課題がありますから、タウンミーティングとか、中小企業の皆さんとか、いろんなことを大体県内2か所とか、あるいは3か所、時には4か所に分けてやっているんですけども、地域包括ケアシステムは全県的な取組みも必要ですし、やっぱりお話しが出たように、まず市町村単位での取組みが大切かと思いますが、そういった視点で進めていきたいと思っています。だいたい時間もまいりましたが、なにかもう一言おっしゃりたいという方はおられるでしょうか。よろしいですか。

○閉会

(石井会長)

それでは、だいたい議論も尽きましたようですので、このへんにしておきたいと思えます。

県としての地域包括ケア推進に関する県民運動実施方針について、特段ご意見はありませんでしたので、これでご了承いただいたということで進めさせていただきますが、お話ししたように、フォーラムはなるべく富山市内だけでなく、いろんな点で次回以降また配慮していきたいと思っています。

あとは、3団体の方にご報告いただきましたが、先ほどのような議論になりましたので、また各団体の取組みをお教えいただいて、それで県全体に通じる取組みを整理して、皆さんに情報共有していただくようにします。

また、市町村との相談になりますけれども、できるだけ幅広く各界の方が協力をして、さらに洗練度の高い充実した内容の政策展開ができるように努力してまいりたいと思えます。

先ほど激励をいただきましたが、富山県は地域包括ケアシステムの面でも全国トップクラスだと言っていただけに頑張っていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。